

NPO 法人なごや歴まちの会

会報 NO.20

令和5年9月1日発行
特定非営利活動法人なごや
歴史まちづくりの会事務局
名古屋市東区樋木町3-58
contact@758rekimachi.net

い
ま
す

文化のみちの中心部である白壁・主税・樟木町並み保存地区から、国道四号線を挟んで西側に位置している場所に由緒正しい木造教会があります。これが日本聖公会名古屋聖マルコ教会（以下「聖マルコ教会」と称する）です。カナダ聖公会のマーガレット・ミ・ヤング宣教師が一八九九（明治三二）年に立ち上げた名門の柳城幼稚園と隣接しています。

づいた見積書を出すことで把握でき
ます。

しかし、「提案したからといって、
すぐに耐震診断へ・・・とはなりませ
んでした。木造住宅以外の建物には診
断費用が必要になるからです。耐震診
断は派遣業務には入っていません。派
遣報告後しばらくして、聖マルコ教会
のご担当者様より「次回の信徒総会で
聖堂を新築するか、減築するか決める
ことになりました。」とご連絡をいた

【事業報告】

【事業報告】

六月十七日(五)歴まちひと・歴ま
ちサポーターのための「スキルアップ
講座」として、名古屋聖マルコ教会の
現場見学会が行われ、十四名の方と公
社の担当の方が参加しました。講師は
山田美紀子さん。歴まちびととして派
遣され、教会の皆さんを根気強く説得
し糸余曲折を経て保存のための耐震
工事にこぎつけたという、歴まちびと
として誇れる事例だと思います。

以下、講座内容をわかりやすく山田
美紀子さんよりご報告していただき
ます。

(松井明子)

名古屋城から徳川園までの界隈には江戸時代から明治、大正、昭和へと名古屋の近代化を伝える建造物が多く残っています。このエリアは『文化のみち』と呼ばれ、一年を通して観光客が訪れ、季節ごとにイベントが開催されたりして、人々にとても親しまれて

(松井明子)

と
で
し
た

『なごや歴まちびと』として劣化箇所の指摘と、①耐震診断を受けて現状の評点をること。②耐震補強設計をもとに見積書を出すこと。をご提案させていただきました。耐震改修の費用は、補強プランを作成し、プランに基

くことは、教会と関わる皆様にとって
も大切なことだと思います。



名古屋聖マリヨ教会 建物概要

竣工：1950（昭和31）年
構造：木造2階建
屋根：金属板葺（竣工当初時は瓦葺）
外壁：モルタル塗りシン仕上げ
設計：大野信雄一級建築士（教員会員）

名古屋聖マルコ教会はゴシック様式の木造教会です。ゴシック様式は二世紀から一五世紀にかけて教会堂を中心に関ヨーロッパへ広がった建築様式で、一九世紀に再流行した影

ここで聖マルコ教会の建物の特徴・魅力をあらためて記すことにします

ちびとの仲間である建設会社さんへ見積書を作成していただいて教会へご提示したところ、何とか総会で行われるプレゼンへ参加することができました。工事費では第二位。最安値から一〇〇〇万円程の差がありました。お伝えしたい内容は全てプレゼンへ込めて結果を待ちました。後日、「耐震改修をして聖堂を使い続けていくことに決定した。」とご連絡をいたしました。聖マルコ教会の皆様も建物に愛着があり、地域にとっても大切な教会建築であることをご理解いただけたことが分かりました。今もなお、教会の皆様へ感謝の思いが溢れています。

響により、日本では明治期の教会建築へよく用いられました

【ブランク四葉形（くり抜き四つ葉飾り）】

葉状装飾はフォイルと呼ばれ、初期イングランド・ゴシック様式を色濃く反映しています。クローバーのくり抜き飾りは、ゴシック建築によく用いられており、葉の枚数により意味合いがあります。四葉形（四つ葉飾り）は、4つの福音書（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）を象徴するものと考えられ、三葉形（三つ葉飾り）は、三位一体なる神を象徴するものと考えられます。

引違窓に尖塔形のレリーフとブランク四葉形を組み合わせて、トレーサリー（窓装飾の名称）を設えています。比較的シンプルなデザインですが、これはゴシック建築を代表する特徴の一です。

【ハンマービームトラス】

構造についての特徴は、天井が張つてあり一部分しか見ることはできませんが、ハンマービームトラスを使用している点です。ハンマービームは、ホール建築や教区教会堂を中心にイギリスで好まれて用いられた屋根架構の様式です。明治初期に持ち込まれた洋建築の構法は、日本の大工により和の技術を工夫して建築されることがありました。聖マルコ教会のトラスも同様の工夫が見受けられます。

フレームについてもイングランドのボックス・フレーム構法を思わせる方法がとられています。

日本の在来軸組工法では三尺（約0.91m）ピッチで柱を立てることが基本となります。聖マルコ教会では九尺（約2.73m）ごとに柱を立てています。ボックス・フレーム構法では六フィート（約1.8m）から二十フィート（約6m）の間隔で柱を立てるため、洋建築の構法を意識して建築しているのだと思われます。

【ハードボードの腰壁と家具】

ハードボードはファイバーボードの一種です。一八九八年（明治三十一年）、英國において木材の纖維をバラバラに解離し、これを原料とした硬質のボードが世界で初めて工業的に生産されました。第二次世界大戦後には世界的な木材資源の不足により、木材工場の残廃材を原料とした製品が飛躍的な発展を遂げ、当時の日本では外国ブランドの輸入によるものが製造されており、羽目板、天井板、床板、家具、建具、キャビネット等に使用されました。聖マルコ教会には、建築当初一九五六年（昭和三十二年）時の状況を伝える貴重な要素としてハードボードの腰壁と家具が現在も残っています。二〇一八年（平成三〇年）年に歴史ある教会建築巡りツアーを実施した際には、聖マルコ教会の腰壁を愛おしく観察する参加者の姿もありました。

今回の耐震改修工事では、すでにあら魅力的な部分をできる限り残し、構造用合板や筋かい等木質材料を用いて補強を行います。土台、柱、梁の接合部で大きな引抜力がかかる所には、柱頭柱脚金物を用いて各部材が外れないよう緊結し、評点一〇（大地震時に一応倒壊しない）を満たす建物に

0.91m）ピッチで柱を立てることが基本となります。聖マルコ教会では九尺（約2.73m）ごとに柱を立てています。ボックス・フレーム構法では六フィート（約1.8m）から二十フィート（約6m）の間隔で柱を立てるため、洋建築の構法を意識して建築しているのだと思われます。

します。

改修後の活用については、今まで通りに毎週礼拝を守り続けることに加え、地域で行われるイベントへ積極的に参加します。『なごや歴まちびと』としては地元でご活躍されているガイドボランティアの皆様とご協力ををして、明治時代を迎えて西洋文化が浸透していく過程で、名古屋の産業の発展とキリスト教会の成長は接点があるのではと思い、現在調査中です。発見があれば、教会建築巡りツアードで発表したいと思います。（山田美紀子）



講座の中で、聖マルコ教会の牧師である丁胤植先生より聖公会がイギリス発祥のキリスト教会であること、その歴史と歩みについて、丁寧にお話いただきました。ご協力に深く感謝申し上げます。



『会員紹介』

荒木 衛／あらき まもる

理事

事務局員（事業担当）

NPOなごや歴まちの会にて、今年度事務局に参加しております、荒木と申します。経歴は、建物の設計を40年ほど行つきました。現在は建設コンサルタント会社の契約社員で、建築の設計と監理に係る仕事等を行つております。

個人的な理由ですが、年に2回ほど、横浜を訪れます。その際に馬車道から日本大通周辺を歩き近代建築を見て回ることが好きです。街路樹と様式建築やアールデコ風の建築が複数立ち並ぶそのエリアを散策すると、歴史的建物の街並みの端正な美しさに酔いります。これは一棟の建物では決して感じることのできない街並みに対する感動です。やはり建物は、その建つている場所と環境によつて成立するべき存在だと思います。



横浜の建物

歴史的建造物に係る仕事としては、一昨年、旧料亭稻本の門の復原設計を行いました。これは工作舎中村氏の仕

事でありますが、当社が愛知県から設計と監理を受けて実施しております。

伊藤平左工事務所の望月氏と構造設計は滋賀の川端建築設計に協力を

お願いして行いました。すでに解体さ

れていた材料の調査、そして仮組を行

い、使える材料の選別の上実施設計を行い、構造計算とその適合性判定、積算、現場監理業務まで行いました。瓦

は古い織部瓦と復原した織部瓦を混

合して既存の屋根を再現しました。現

在ジブリパークの中の一画に建つて

おります。

今後は、名古屋市の歴史的建造物を活用した景観形成等に、多少なりとも貢献できればと考えております。

山口 ゆづみ／やまぐち ゆづみ

理事

事務局員（広報会報担当）

一年前のコロナ禍に、「あいちのたてもの博覧会2021」で母校の金城学院高等学校にある国登録有形文化財の『栄光館』を建物解説しました。卒業後に母校の歴史を改めて調べたり、新しく建て替えられた校舎に訪れたりして、高校生時代にタ

イムスリップしたかのワクワクした体験が出来ました。文化財の栄光館を毎日のルーティンで使い、このすばらしい空間で三年間を過ごせたことは、今の私にとってはかけがえのない財産です。また、在校中に登つたことのない屋上で撮影したりして新たな発見をして、貴重な機会をいたきました。そして、良い思い出

もできます。これが工作舎中村氏の仕

が出来ました。動画公開のため、今までYouTubeで見る事が出来ます。

今



栄光館

名古屋市緑区有松での活動は、NPOを立ち上げるまでに一年間、毎月会議を地元の方と開催しました。翌年に、有松が重要伝統的建造物群保存地区に選定されることを知らずに関わりましたので、NPOとして活動することで色々な経験をさせて頂きました。その一つである『なごや歴史的建造物保存活用工事助成』では、保存だけでなく、クラウドファンディングでの資金調達も行いました。たくさんの方々にご支援を頂き、心から感謝致しております。工事中に「弘化三年」と書かれている床の間の裏板を発見して、有松で二番目に古い建物だと知り、気持ちが引き締まつた事を今でも忘れられません。その後、日本遺産に認定された有松で、色々な手段で保存活動の活動をしています。

東海道一の美しい町並みと言われている有松を、次世代に繋げていってくれる活動をしていきます。

『事務局だより』

「歴まちびとの相互認証と養成講座プロジェクトチームについて」

現在歴まちびとの相談件数が増えており、対応していくため次期歴まちびと養成講座を早期に開催したいが、四期開催の際応募が少なく苦労したということを名古屋まちづくり公社からお聞きしています。一方、原真佐実理事たちのご尽力によりあいちヘリテージ協議会と日本建築家協会修復塾、なごや歴まちびとの三者間で相互認証ができることがあります。そこで今年度、名古屋市と公社、歴史まちづくりの会でプロジェクトチームをつくり、次期歴まちびと養成講座に必要なプログラムの検証をしつつ、重複部分の洗出しをすることなりました。会からは、加藤理事長、原理事、澤村理事、松井事務局長が参加します。

会員の皆さまには、次期養成講座内容についてのご意見、養成講座開催・運営についてのご意見など、メールで事務局までお寄せいただければプロジェクトチームの中で生かしていけると思います。よろしくお願ひします。

（事務局 松井明子）

